

テーマ:

「凜々子」で友達 -特別支援学級間の交流-

千葉県千葉市立生浜小学校

垣地 広之 先生

齋藤 文子 先生

●特別支援学級 2～5年生

●生活単元

この活動の特徴

「凜々子」活用のポイント①

他校の特別支援学級との
交流会を実施
「凜々子」を他校に広める！

「凜々子」活用のポイント②

前年度2月から
土作りに取り組み、
他学年にも土を提供

「凜々子」活用のポイント③

文化祭で「凜々子」の
学習発表！全校児童や
保護者に情報発信

活動のねらい



- 根気強く「凜々子」を栽培し、観察する。
- 調理体験を通して、自然の恵みに感謝する。
- 「凜々子」を通して、他校と交流し、その良さを他校に広める。

活動の概要と流れ

対象学年：特別支援学級（あおば学級）2～5年生（6名）

実践期間：前年度2月～12月

時期	学習活動
前年度2月	・他校との交流を23年度の教育目標とし、「凜々子」を通じた活動を計画する。 狭く日当たりの悪かった栽培スペースから、広い「あおば凜々子園」に活動拠点を拡大、ワラなどの堆肥を入れた土作りを行う。
4月22日	・準備した堆肥を入れて畑作りを行い、苗を植える。 ・2年生の定植を手伝い、苗の植え方などを指導する。
5月18日	・芽かきをする。カラス対策のテグスを張る。
7月4日	・トマトの収穫が始まる。収穫した実は随時洗って冷凍保存。
9月12日	・交流会に向けて調理実習を行い、作業のポイントを確認する。
9月15日	・千葉市立蘇我小学校たんぼぼ学級との交流会を実施。他校のお友達を招いて、合同で収穫体験と調理を行い、交流を図る。（11月には先方の学校を訪問）
11月10日	・千葉市8校の特別支援学級が集う遠足交流会で、蘇我小と合同で交流会のようすを発表する。
12月10日	・生浜小フェスティバル（学習発表会）で、全校児童と保護者に対し、これまでの活動の成果を発表した。



ここがポイント! 取り組みの工夫

子どもの自立と社会参加を目指し、主体的な栽培活動と他校との交流を目標に

本校の特別支援学級（あおば学級）は開設3年目を迎えた。特別支援学級の目標は、「自立と社会参加」であり、手に技術をつけ、社会で働ける人材を育てることである。「凧々子」の栽培は今年で3年目となるが、一昨年、昨年度は狭く日当たりの悪い場所で育てたため、管理が難しく、収穫量も少なかった。

本年度は、「凧々子」を通して他校と交流することを教育目標とし、子どもが主体的に栽培活動に関わるよう計画した。交流会の目玉に調理実習を設定、大量収穫を目指して広い「あおば凧々子園」に栽培拠点を拡大し、刻んだワラを土に混ぜ堆肥づくりを行うなど、前年度2月の土づくりから活動をスタートした。



取り組みの裏話・・・

他校との「交流会」計画から実施まで

市内8校の特別支援学級の遠足交流会は、以前から実施されていたが、今年度はさらに深い交流ができないかと思い、子どもたちの移動が容易な近隣校から声をかけたところ、蘇我小学校から快諾を得て実現することとなった。

「凧々子」を中心とした交流を計画したのは、子どもたちが過去に栽培した経験があったこと、「食」は多くの人に共通する、興味・関心の高いテーマで、見る側、見せる（発表する）側、双方にわかりやすいと考えたからである。

過去の栽培経験を活かして2年生の栽培をお手伝い

子どもたちは、昨年も「凧々子」を育てたので、定植などの作業はスムーズに行うことができた。また、一人一鉢で育てる2年生の栽培を手伝い、自分たちで用意した栄養たっぷりの土を鉢に入れてあげたり、苗の植え方を教えたりした。

2年生に教える経験は、交流会の練習となり、また、自分たちの栽培にも自信がわき、責任感も高まる機会となった。



他校との交流会で「凧々子」を紹介。一緒に作業することで緊張がほぐれ、会話がはずむ

交流会当日、千葉市立蘇我小学校たんぼ学級のお友達が来校すると、初めに「あおば凧々子園」へ案内し、一緒にトマトを収穫した。手で収穫しながら「凧々子」の特長であるジョイントレスを説明、会話することで次第に緊張がほぐれていった。



家庭科室に移動し、これまでの栽培活動について、映像を交えながら観察時に注意したことなどを発表した。



調理実習では、冷凍トマトの皮むきの仕方を教えたり、一緒に作業をする中で一体感が生まれ、試食をしながら楽しい交流が図れた。食を通して生まれた楽しい思い出は、次回、蘇我小学校での交流会への弾みとなった。



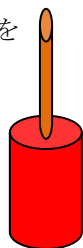
年度当初に各校の教育目標に沿った取り組みを計画し、交流会の日程を決めた。本校は収穫時期に合わせて9月とし、調理実習を兼ねた交流会を計画した。

両校の担任同士が密に連絡を取りながら準備を進め、9月と11月に相互の学校で交流会を実施、さらに、市内8校の遠足交流会でも、2校合同でこれまでの交流のようすを他の6校に発表した。この時、模造紙等、視覚に訴えるツールがなかったことで、相手に伝わりにくかった反省から、12月の学習発表会では調理実習と模造紙を使って発表、活動の成果を多くの人に伝えることができた。

子どもたちの気付き、実践の成果

カラス対策も自らの手で作業、何度でも粘り強く取り組む

毎年カラスの害が出るため、教員が「凜々子フォーラム」で知った契約農家でのカラス対策を取り入れることにした。定植後まもなく、給食で出た大きな缶に廃棄となったほうきの柄をセメントで固めたもの（右図）を畑の四隅に埋め、テグスを張った。（写真下）



ところが、実が赤く色づいてくると、やはりカラスが食べてしまったため、鳥避けのネットを張ることにした。子どもたちは作業をしながら、自分たちの手でトマトを守っていることを実感していた。

自分で作ったものだからこそ大事に味わい、苦手な野菜にも挑戦する子どもに

年度当初は子どもたちの好き嫌いも多く、苦手な食べ物はなかなか口にしようとしなない姿も見られたが、「凜々子」を使った調理では、自分たちの手でトマトソースを作ることができるようになり、トマトや玉ねぎが苦手な子どもも残さず食べていた。

自らの手で育て、世話をし、収穫したトマトを使った調理が、食べ物を大事に思い、味わってみようとする前向きな姿へとつながっていった。

「体験」が自信を深め、「自立と社会参加」の一步を踏み出す

交流会でお客様をお迎えするという目標が決まっていたので、栽培や事前調理にもやる気が出て何事にも積極的に取り組むようになり、交流会ではそれまでの体験から、他校の友達にも自信を持って説明していた。



また、調理を繰り返す中で、高学年の児童は玉ねぎのみじん切りがとても上手になり、学習発表会では多くの人たちから喝采を浴びる程の腕前になった。

体験を繰り返すことで、子どもたちは「自分でできる」喜びを感じ、たくさんの人に褒めてもらうことで大きな自信をつけていった。



先生から一言！ 実践を通して

「凜々子」を通しての交流を計画したのは、「食」が多くの人に共通する関心の高いテーマであり、子どもたち自身の手で栽培や調理などが体験できると考えたからです。子どもたちは自分で体験したことは自信を持って人に伝えることができます。また、伝えることで新たな自信も生まれました。

「体験が自信を深める」ことは特別支援学級児にも当てはまり、「自立と社会参加」に一步近づいたように感じています。

受賞理由



子どもたちの自立を促し、多くの体験から自信を深めた他校との交流会。子どもたちが体験活動に主体的に関わるよう準備し、繰り返し実践したことや、たくさんの人に「伝える」場面を多く設定したことで、子どもたちは楽しみながら自信を深めていったのだと思いました。

栽培活動でも、過去の失敗や反省をいかして、場所の選定から土作り、カラス対策にも粘り強く取り組んでいてすごいね！今年は今年の8倍ものトマトが採れて、大収穫だったそうだよ！

みんなで協力しながら、「凜々子」をたくさんの人たちに紹介してくれたこと、ボクはとっても嬉しかったです。みんなのがんばりに拍手！！